



マイク&カメラ

市民インタビュー室

今回のこの欄に登場するのは、あなたかも？
身近なニュース、まちの話題などをお知らせください
☎情報政策課広報係 ☎22-1411 (内線431)

災害ボランティアの組織化を目指して

ひこね災害ボランティアネットワーク 永芳 亨 さん (長曾根南町)

突然大きな災害に見舞われたとき、大きな役割を果たすのは、ボランティアなどによる人々の助け合いです。けれども、混乱した状況のなかで、集まったボランティアたちが機能するのは、簡単ではありません。

私たち「ひこね災害ボランティアネットワーク」は、そうした問題について、市民の立場で何かできることはないか、と昨年5月に100人の会員を集めて結成されました。その後、仮設トイレを設営したり、非常食を調理する「避難所シミュレーション」や会報発行などの活動をしてきました。

9月1日には、行政との連携をさらに図るため、滋賀県総合防災訓練に参加しました。県や市などが中心となった大がかりな訓練のなかで、災害対策本部に「ボランティア本部」を設置し、被災状況や避難所などの状況を確認する訓練をしました。また、避難所になった鳥居本小学校でも、ボランティアの受付や、輸送されてきた物資を搬入したりといった訓練をしました。

今後は、さらに大きな役割を果たせるよう、ネットワークを広げていこうと考えています。お問い合わせ先 彦根YMCA ☎231646番

◀永芳さん

地元住民やボランティアによる
救援物資を搬送する訓練
(鳥居本小学校で) ▼



▲唄の練習をする出演者の皆さん。
奥でいすに座っている人が木村正雄先生

荒川さん ▶

子ども創作狂言「芹川」に出演します

金城小学校5年 荒川 樹 さん (大敷町)

大蔵流の狂言師で重要無形文化財総合指定保持者の木村正雄先生が、芹川をテーマに創作狂言を作られました。芹川のけやきの精が、芹川への思いを語るとい内容です。11月16日に、ひこね市文化プラザのグランドホールで上演されます。演じるのは、私たち金城小の小学生11人などです。みんなで集まって練習するときには、木村先生が毎回京都から教

識を変えていくために企画しました。初めて練習で集まったときには、実際に芹川を見て回りましたが、タンスやテレビが捨ててあるのを見てびっくりしました。どんな人が捨ててるのか、不思議に思います。

えに来てくださいます。

狂言では、せりふを言ったり、踊りを踊ったりします。何をするのも、心を込めてやらないと見ている人に伝わらないので、一生懸命練習しています。

創作狂言「芹川」の上演は、県内で活動する市民グループ「セブンドロップス」が環境問題の解決を目指し、私たち一人ひとりの意

創作狂言「芹川」は、いろいろと勉強になる内容なので、小学生の人にたくさん見てもらいたいと思います。